

目的

ギャンブル等依存症対策基本法に基づく実態調査として、令和5年度におけるギャンブル等依存が疑われる者の実態とギャンブル等依存症の関連問題の実態を明らかにすることを目的とする。  
 一般住民における「ギャンブル等依存が疑われる者の割合の推計」、「ギャンブル経験」や「ギャンブル行動」の実態、公的な相談機関の利用者を対象としたギャンブル等依存の問題を抱えている当事者と家族の特徴やギャンブル関連問題の実態について調査。

全国住民調査の概要

- 調査対象：無作為抽出された一般住民 18,000名（満18歳以上75歳未満）
- 調査手法：調査票を郵送し、回答は郵送・インターネットのいずれかを選択
- 有効回答：有効回答数 8,898票（49.4%）  
 [男性4,204名、女性4,694名]

結果

- 国民のギャンブル行動
  - 過去1年間のギャンブル経験：男性の44.9%（1,888名）、女性の26.5%（1,243人）
  - 過去1年間にギャンブルに使った金額（1か月あたり）：中央値 9,000円
  - 過去1年間に最もお金をつかったギャンブルの種類：宝くじが最多（53.3%）で、パチンコ（15.0%）が次に多い。
- 過去1年におけるギャンブル等依存が疑われる者（PGSI 8点※以上）の割合とそのギャンブル行動
  - PGSI 8点以上の割合（年齢調整後）【図表1】：**1.7%**（95%信頼区間1.4~1.9%）、**男性2.8%**（95%信頼区間 2.3~3.3%）、**女性0.5%**（95%信頼区間 0.3~0.7%）

（参考）令和2年度調査では全体1.6%（95%信頼区間：1.4~1.9%）であり、ギャンブル等依存の疑いがある者の割合に統計的に有意差はない。

  - 過去1年間にギャンブルに使った金額（1か月あたり）：中央値 6万円
  - 過去1年間に最もお金を使ったギャンブルの種類は、男性ではパチンコ（43.4%）、パチスロ（24.5%）、競馬（11.3%）の順で、女性ではパチンコ（60.9%）、パチスロ（17.4%）の順で割合が高い。【図表2】
  - インターネットを使ったギャンブルの購入方法については、PGSIの得点によらず、すべての公営競技などにおいて、「主にオンライン」または「両方」で行うと回答した者の割合が過半数を占めた。
  - 新型コロナウイルス感染拡大前と比較し、インターネットを使ったギャンブルの利用が増えた（「新たに始めた」、「する機会が増えた」の合計）との回答は、PGSI 8点未満の者では3.6%であったのに対し、PGSI 8点以上の者では19.9%であった。

※ PGSI（Problem Gambling Severity Index）：カナダのHarold Wynne博士、Jackie Ferris博士によって開発されたギャンブル問題の自記式スクリーニングテスト。一般住民を対象とした疫学調査で使用するために開発されたテストで、海外の多くのギャンブル問題に関する調査で用いられている。得点範囲は0点~27点で、本調査は合計8点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。

【図表1】過去1年におけるギャンブル等依存が疑われる者(PGSI 8点以上)の割合[年齢調整後]

		男性	女性	男女合計
PGSI 8点未満	人数	4,298人	4,368人	8,666人
	割合	97.2%	99.5%	98.3%
PGSI 8点以上 (ギャンブル等依存が疑われる者)	人数	123.4人	23.0人	146.4人
	割合 (95%信頼区間)	2.8% (2.3~3.3%)	0.5% (0.3~0.7%)	1.7% (1.4~1.9%)
全体	合計人数	4,422人	4,390人	8,812人

【図表2】過去1年間で最もお金を使ったギャンブルの種類(PGSI 8点以上の者)(抜粋)

ギャンブル種	男性	女性	男女合計
パチンコ	46 (43.4%)	14 (60.9%)	60 (46.5%)
パチスロ	26 (24.5%)	4 (17.4%)	30 (23.3%)
競馬	12 (11.3%)	0 (0.0%)	12 (9.3%)
競輪	3 (2.8%)	1 (4.3%)	4 (3.1%)
競艇	6 (5.7%)	0 (0.0%)	6 (4.7%)
オートレース	1 (0.9%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)
宝くじ(ロト・ナンバース等も含む)	4 (3.8%)	1 (4.3%)	5 (3.9%)
証券の信用取引、先物取引市場への投資、FX	7 (6.6%)	0 (0.0%)	7 (5.4%)